

## 業界にイノベーションを起こした開発力 災害時や途上国の住宅問題に貢献

2014年に設立。沖縄県南城市に拠点を置き、コンクリート分野のイノベーションを展開する超薄肉コンクリート板(以下「HPC」という。)の開発・販売およびライセンス貸与と原材料の販売を行いながらコンクリート製品の高付加価値、ブランディングの強化を行っている。著名な建築家、建築構造設計者がHPC技術の開発に携わり、クライアントからデザイン的、技術的な信頼度が高く評価されており、国内外において多数のHPC採用実績を有する。

所在地 沖縄県南城市大里字古堅1246番地  
電話 098-897-3211  
URL <http://hybridpc-okinawa.com/>  
代表者 代表取締役 阿波根 昌樹

設立 2014年  
資本金 3,150万円  
従業員数 1人



### 特許技術による超薄肉コンクリート板

HPCは、緊張材によるメカニカルプレストレストと膨張材によるケミカルプレストレストを組み合わせ、コンクリートの常識を覆す薄肉化と強度、驚異的な靱性を実現している。この物性により自由度の高いデザインが可能となり、一般建築部材などの非主用構造部材用として使用されている。HPC技術の特許化によりライセンスビジネスをグローバル展開。販路開拓をライセンス契約締結先に委ねるのではなく、同社が深く関与し、HPCが有するポテンシャルの最大化とブランディングを実現している。



HPC施工事例

### 災害時に活躍可能なHPC

HPCはコンクリート、炭素繊維、ポリプロピレンが主な材料であることから、一般的なコンクリートで生じる錆の問題を解消している。ゆえにコンクリートの練り混ぜ水として海水を利用することができるため、十分に真水が確保できない諸外国での被災地復旧工事等の場面や日常から真水が貴重な島嶼国のインフラ整備に活用できると期待されている。さらに、高耐久・超軽量ユニットのHPCパネルを備えることで緊急時(自然災害時)の住まい課題にもプレハブ化住宅として貢献可能である。



災害時の住宅問題

### 世界初の薄型軽量コンクリート、インドの社会課題を解決

インド政府は全国民に住宅を供給する目標「Housing for all」や低所得者層にも取得可能な住宅供給を増加させるアフォーダブル政策を掲げている。同社は、この課題解決のためHPCパネルKITで構成された画期的なアフォーダブル住宅を実現した。これは、スケルトンで組み立てることを想定しているため、納期を短縮化することができ、またHPCの特性である超薄肉、軽量という特徴ゆえにコスト削減に大きく寄与する。これにより低所得者層の住宅取得が促進し、感染症対策にも貢献可能である。



インドの住宅課題